

普及活動情勢報告（令和5年2月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

輸出拡大に向けて！

・・・おおきみ部会目慣らし会・・・



1月13日、JA中村支所野菜集出荷場で、イチゴ目慣らし会が開催され、おおきみ部会員8名、関係機関6名が参加しました。部長から、「過熟果は色が抜ける。着色具合を確認し、収穫が遅くならないように。」と適期収穫について説明があり、部会全体で選果基準を共有しました。

農業改良普及課は、台湾輸出時における農薬残留基準値と併せ、使用可能な農薬や有効な防除方法について説明しました。

今後は、輸出先国の農薬残留基準に対応した防除体系を作成し、輸出拡大に向けた支援を行っていきます。

キュウリの養液栽培管理を学ぶ！

・・・黒潮エコアグリ 視察調査・・・



1月18日、農業技術センターで、黒潮エコアグリ社員2名、振興センター1名がキュウリ養液栽培等の視察調査を行いました。農業技術センターからは、試験概要や養液栽培の管理ポイント等について説明がありました。

黒潮エコアグリの社員からは、「養液栽培では、ハウスが違っていても葉や樹姿が同じような形をしている」、「養液栽培の管理について、参考になった」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も引き続き、収量アップに向けた支援を行っていきます。

みんなはどんな管理をしているの？

・・・キュウリ若手現地検討会・・・



1月20日、黒潮町早咲地区の若手農家のほ場で、キュウリ若手現地検討会を開催し、若手キュウリ農家9名と農業公社研修生2名、関係機関職員7名が参加しました。

会では、農業改良普及課から現在の生育状況について報告し、その後、農家が主体となって厳寒期の温湿度管理や雨天時の暖かい夜の管理ポイント等について、意見交換を行い、参加者同士で熱心に栽培管理の内容を共有できました。

今後も若手生産者同士の意見交換の場を作り、自ら考える生産者の育成を目指していきます。

みんなでスグ・ラクに見られる！・・・黒潮町キュウリ SAWACHI TV設置・・・



1月25日、黒潮町のキュウリ農家2戸のハウスに、デモ用のSAWACHI TVを設置しました。

SAWACHI TVでは、TV画面でSAWACHIの情報が確認できるので、設置に協力いただいた農家から、「画面が大きくて見やすい」、「操作しなくてもページが切り替わるので楽だ」といった意見が聞かれました。

農業改良普及課は、現地研修などを活用して、多くの方にSAWACHI TVを見てもらい、農家の意見や要望を反映させることで、誰もが使えるSAWACHI環境の実現を目指します。

組織間連携に取り組みませんか？・・・四万十市西土佐集落営農組織連絡会・・・



1月27日、四万十市西土佐総合支所で、集落営農組織連絡会を開催し、4集落営農組織から5名、関係職員7名が参加しました。

農業改良普及課は、各組織の共通課題解決に向け、機械の共同利用や資材の大口購入等への取組提案と併せて、集落営農組織の機械・資材使用調査を依頼しました。参加した組織からは、「地理的に離れているが連携に参加できるのか」、「連携は大事。今のうちから検討しないといけない」等の意見が出ました。

今後は、調査結果の取りまとめと、組織間連携に向けたグループ化や具体的な取組内容について協議します。

農福連携に必要なことって何だろう？・・・第3回幡多地域農福連携協議会・・・



1月27日・2月3日、土佐清水市と宿毛市の生産者ほ場（ナバナ・ブロッコリー）とJA集出荷場（ブントタン）で、第3回幡多地域農福連携協議会を開催し、合計29人が出席しました。

会では、ほ場とJA集出荷場で作業を見学した後、参加者同士で意見交換を行いました。農家側からは「預けた農産物をできないからと返却されては困る」という声が聞かれた一方、福祉側からは「工夫すれば出来る範囲が広がる。無理だと決めつけず、対話から始めてほしい」という意見が出ました。

今回の会では、相互の現場理解が十分に進んでいないことが明らかとなったため、今後は相互理解を深めるための支援を行っていきます。

子ども達への食農教育！

・・・宿毛4Hクラブ 小筑紫小学校出前授業・・・



1月28日、宿毛市小筑紫小学校で、宿毛4Hクラブが、出前授業と餅つき体験を実施し、小学生約70名とクラブ員9名、関係職員6名が参加しました。

当日は、小筑紫小学校1年生から6年生に対して、宿毛4Hクラブの活動やイチゴの栽培方法等について授業を行った後、小学生・保護者・関係職員全員で餅つき体験と大福作りを行いました。小学生達は、授業を熱心に聞き、餅つき体験を楽しんでいる様子でした。

今後も、子ども達への食農教育を行う宿毛4Hクラブの活動を支援していきます。

過去最高額ぜよ！

・・・（農）三原やまびこ 総会・・・



1月30日、三原村上長谷集会場にて、第7回（農）三原やまびこ通常総会が開催され、組合員19名、関係機関5名が出席しました。

農業改良普及課からは、「増収ポイント」、「非辛みシシトウ高育交15号」について説明しました。雨よけシシトウ栽培は6作目となり、過去最高収量に加え、高単価により、過去最高の販売額（前年比130%）を記録しました。

会は、参加者全員笑顔の絶えない総会となり、組合長からは、「こうして総会が迎えられるのも、振興センター始め、関係機関の支援があればこそ」と感謝の言葉がありました。

次年度以降も、「今年も良かったね」と皆さんから言っていたけるよう、支援を続けていきます。

適正・安全な飛行のために

・・・幡多地域農業用ドローン利用者連絡協議会・・・



1月30日、幡多農業振興センターで、幡多地域農業用ドローン利用者連絡協議会を開催し、集落営農組織や作業受託グループ等計30名が参加しました。

この協議会は、ドローンの適正・安全使用のための情報共有を目的に、振興センターが設立したものです。会では、環境農業推進課や農機具メーカーから県の方針や制度等の情報提供を行い、農業改良普及課からはドローン飛行マニュアル作成を提案し、その後意見交換を行いました。

参加者からは「免許制度の移行について初めて知った」、「他の利用者の取り組みが参考になった」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も年2回程度協議会を開催し、各種制度の周知・共有と、情報交換を支援していきます。

正しい剪定方法の取得！ ・ ・ ・ 幡多地区営農改善協議会ユズ剪定研修会 ・ ・ ・



1月31日、四万十町地吉のユズ園で、指導者向けの剪定研修会が開催され、生産者2名、JA営農指導員6名、普及指導員4名が参加しました。

会では、普及職員が日射方向や傾斜、隣接樹との関係等を考慮した剪定方法について講習しました。また、メーカーの協力により、電動ハサミとチェーンソーの使用体験も行いました。参加者は最初は不慣れな様子でしたが、すぐに慣れ、機械を使った剪定作業に汗を流しました。

農業改良普及課は、今後も若手指導員の育成に取り組んでいきます

任意組織から法人組織へ！ ・ ・ ・ 農事組合法人上長谷営農組合設立総会 ・ ・ ・



2月4日、三原村上長谷集会所で(農)上長谷営農組合の設立総会が開催され、組合員13名、関係機関5名が参加しました。

(農)上長谷営農組合は、水稻の協業経営や農作業受託等を通じて、集落の農地を守る活動を目的に設立され、代表理事からは、「組合員や関係機関の力を借りながら、集落の維持に貢献していきたい」と意気込みが語られました。

農業改良普及課では、法人の経営安定に向けた支援を継続していきます。

GAPの取組サポートします！ ・ ・ ・ GAPの取組推進 個人面談 ・ ・ ・



2月9日、GAPの取組を推進するため、四万十市の施設ショウガ生産者と個人面談を行いました。

個人面談では、GAPの意義とメリットを説明したことで、生産者からは「今まで興味はあったがどうすればいいかわからなかった。是非、取り組んでいきたい」と前向きな発言がありました。

次回は現地巡回を行い、ほ場の状態や作業中の様子を確認して、具体的な取組に対する支援を行っていきます。